

運転のしやすさと落ち着き感を両立した安心視界。

アイポイントを見晴らしのよさと乗用車としての落ち着き感を最適にバランスさせた高さに設定するとともに、ワイドな視野角で良好な運転視界を実現。サイドウィンドウのラインを水平基調とし走行時の安心感を高めるなど、市街地でも高速道路でも運転しやすく落ち着きが感じられる視界としました。

■ ボンネットが見え、取り回ししやすい前方視界

特徴的なヘッドライトの隆起がコーナーマーカー代わりに視認できるようにし^{※1}、車庫入れ時や狭い路地での取り回しを容易にしました。フロントウィンドウは、フロントピラーを立たせることでクラストップ^{※2}のワイドな視野角を実現。爽快な視界を提供するとともに、コーナーなどで対向車を見やすくしています。

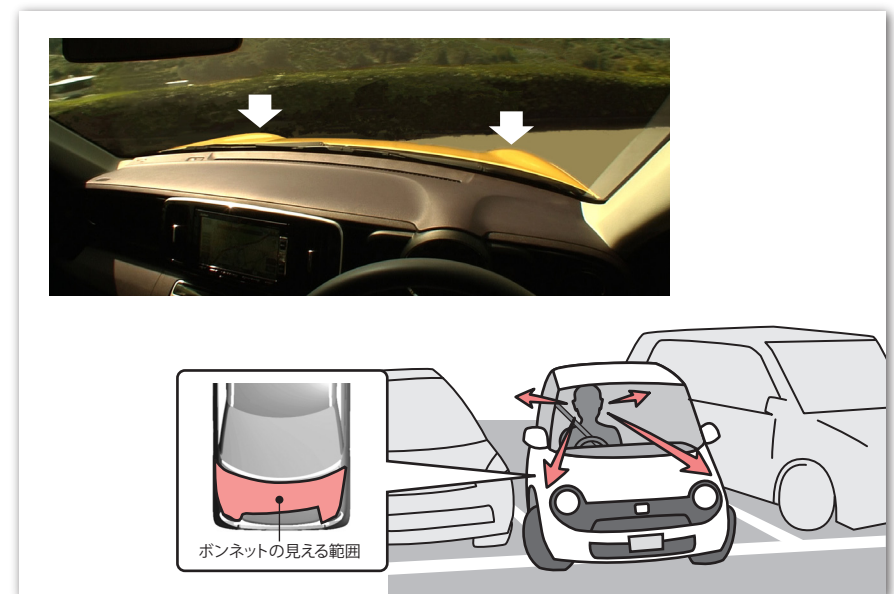
■ 流れるような景色の見え方と落ち着き感を目指した側方視界

サイドウィンドウ下端のラインを、ドライバーからガードレールが視認しやすく、なおかつ包まれ感も得られる絶妙な高さに設定。フロントウィンドウからリアアウインドウまで素直な水平基調で一貫し、高速クルーズ時に景色がスムーズに流れて見えるよう配慮しました。一方、インパネやドアライニングには抑揚を与え、包まれ感とともに、上質さや落ち着きが感じられるようにしています。

■ 人の感覚を重視した広さ感の創出

N360の設計思想を引き継ぎ、広さを感じさせる工夫を随所に盛り込みました。フロントウィンドウ上端のラインを、まぶしさを感じさせない範囲で上方に設定。良好な見上げ視界を実現しています。また、リア乗員の頭上空間は、テールゲートヒンジの張り出しを最小化したうえでスッキリと処理し、圧迫感を感じさせないよう配慮しました。

■ ボンネットが見え、取り回ししやすい前方視界



■ 景色がスムーズに流れるサイドウィンドウ



※1 標準的な日本人男性の体型としてHondaが定めた基準値に基づく。
 ※2 軽ハイワゴンクラス 2012年10月現在 Honda調べ